

第7回千年のかくれんぼフォトコンテスト

審査員 宮武 健仁 氏

【総評】

《プロフィール》

1966年大阪生まれ、徳島育ち。紀伊半島で水をテーマとして撮りはじめ、郷里の吉野川を中心に四国の水のある風景を撮り歩く。桜島の噴火を見て以来、大地のマグマの「赤い火」の迫力と、火山国の日本の各地にある地球の活動が感じられる風景や、その近くを流れる清流、そこに暮らす光る生き物たちを追って全国を旅する。桜島の赤く光る溶岩や、ホタルの緑に輝く川、ホタルイカの青く輝く浜などの光景が評価される。ニューヨークへも招待され、個展「日本の夜と光」を開催。著書に写真集「Shine命の輝き」「生きている大地『桜島』」「清流吉野川」「四季紀伊」や、写真絵本「光るいきもの（3冊組）」「火山の国に生きる（3冊組）」などがある。

「日経ナショナルジオグラフィック写真賞2013」グランプリ受賞



今回よりインスタグラム部門も加わり様変わりした本コンテストですが、とても沢山の力作が集まり、嬉しく思いながら拝見させていただきました。

前年の水害の影響や天候不順によって例年の様に行われなかったイベントや、見られなかった被写体などご苦勞の多かった年でしたが、その中でもキラリと光る瞬間を逃さずにレンズに収められた情熱には敬服致します。吉野川や剣山など恵まれた自然と、長く守られてきた歴史ある文化と魅力が豊富な三好市さんですが、今年度には初めて開催された「にし阿波の花火」も新たに加えられた見所となりました。そんな素晴らしい光景の中から新たな魅力を発掘された皆さんの力作が広く世界に共感され、次の感動発見につながればと思います。

令和元年度

第7回千年のかくれんぼフォトコンテスト プリント部門 ～入賞作品ご紹介～



最優秀賞「競演」

氏名：増田 実 （徳島県 在住）

撮影場所：三野町

撮影日：2019年10月5日

昨年10月に吉野川の河川敷公園を利用し初めて開催された「にし阿波の花火」の作品です。中四国エリアでは初めての試みと言われるほどの本格的な花火大会で、全国各地から観客が来られ、その注目度の高さなどでも大きなニュースになり、今回のコンテストにも多くの出品を頂きました。その中でもこの作品は花火の鮮やかさや迫力が特に素晴らしく、タイトル通りの夜空に浮かぶ競演の瞬間を美しく表現されています。



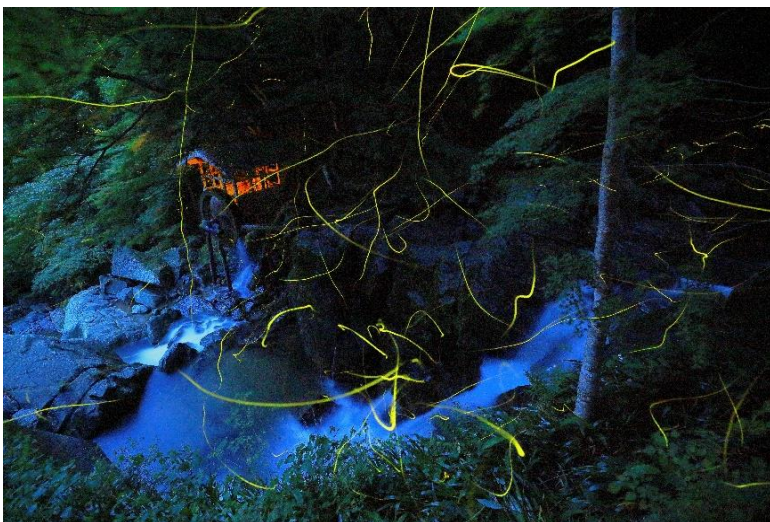
優秀賞(春) 「花舞台」

氏 名：岩本 幸広（香川県 在住）

撮影場所：山城町信正

撮 影 日：2019年4月10日

大きな一本桜と鐘が春の霧雨に煙る、山里の光景がしっとりとした美しさの作品です。雨に一面に散った花びらと、奥に見える田植え前の棚田の対比も「和」の風景で、時代が変わってもいつまでも続いて欲しい日本のふるさとの情景です。



優秀賞(夏) 「ホタル舞う頃」

氏 名：佐竹 清（徳島県 在住）

撮影場所：山城町黒川谷

撮 影 日：2019年6月28日

ゲンジボタルの光で明るく見えた事から明るい谷が転じ「赤谷」と呼ばれる山城の谷川。水車小屋をポイントに配し、日本の原風景のような光景を見事に捉えられました。一昨年の水害により幼虫も流されたとして、去年は恒例の蛍祭りも見送られていたのですが、どっこい生き長らえている蛍たちもいて、それをじっくりとレンズに納められた佐竹さんの執念も素晴らしいです。



優秀賞(秋) 「秋彩」

氏 名：上杉 孝徹（香川県 在住）

撮影場所：出合発電所付近

撮 影 日：2019年11月22日

紅葉の祖谷川を鮮やかに捉えた美しい作品です。清流で知られる祖谷川ですが、特に水深があり青さが増す流れと、背景の紅葉の景色をバランス良く切り撮りました。さらに、より鮮やかさを引き立てた丁寧なプリント作業によって作品が生きています。



優秀賞(冬) 「初冬」

氏 名：林 昌弘（徳島県 在住）

撮影場所：東祖谷菅生

撮 影 日：2019年11月30日

初冬の三嶺で撮影された霧氷の美しい風景です。暖冬とも言われたこの冬は冬景色のタイミングを読むのも難しかったですが、登山時間が長くハードルが高めのこの深山に挑まれた熱意が実り報われた感動が伝わってきます。



入 選 「歴史お辿る」

氏 名：井上 義信（徳島県 在住）

撮影場所：雲辺寺

撮 影 日：2019年6月29日

雨に光る五百羅漢さんたちの迫力と、その後ろを梅雨の霧に霞みながら一人で山道を往くお遍路さんの対比が冴える作品です。



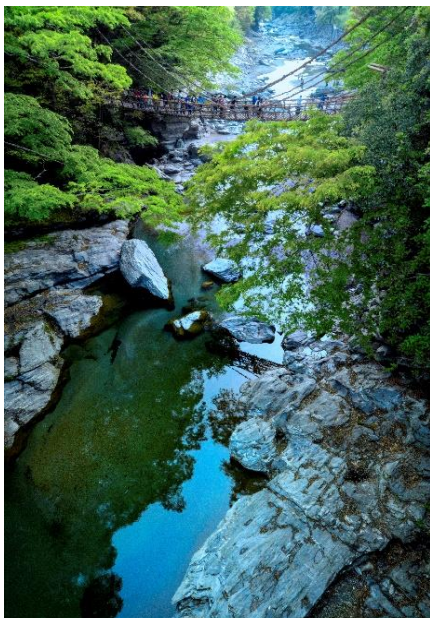
入 選 「クリスタルブルーの輝き」

氏 名：上田 龍太郎（静岡県 在住）

撮影場所：三野健康防災公園

撮 影 日：2019年10月5日

にし阿波の花火を、会場内の土手斜面から魚眼レンズで撮られています。有料観客席からはさすがの眺めで、これほどのボリューム感で幅広く演出された花火は初めてではないのでしょうか。その花火が吉野川の清流のように青く輝いた瞬間を、屋台や多くの観客も取り入れセンス良く写し出しました。



入 選 「春の溪谷」

氏 名：岡崎 秋光（愛媛県 在住）

撮影場所：西祖谷

撮 影 日：2019年5月4日

鮮やかな新緑とそれを映す溪谷が、かずら橋を引き立てている爽やかな作品です。



入 選 「護摩焚き」

氏 名：柏原 史郎（徳島県 在住）

撮影場所：箸蔵寺

撮 影 日：2019年8月4日

夏に箸蔵寺で行われるごま供養の作品です。縦構図で人物と炎を大きく捉えてさらに迫力が出ています。



入 選 「朝霧躍動」

氏 名：佐伯 登（愛媛県 在住）

撮影場所：池田町西山

撮 影 日：2019年10月9日

吉野川は、池田より下流は中央構造線沿いに東西に流れ、朝夕日が特にドラマチックな川です。輝く朝霧の隙間から覗く池田ダムと吉野川が構図に動きを生み出しています。



入 選 「初夏のささやき」

氏 名：芝崎 静雄（愛媛県 在住）

撮影場所：雲辺寺参道

撮 影 日：2019年7月15日

紫陽花が咲く梅雨時の霧の杉林の光景を、広角レンズで奥行きを強調しながら表現しています。青く煙る霧と光がバランス良く切り取った構図で引き立てられ美しいです。



入 選 「長月の郷」

氏 名：小豆 恒夫（香川県 在住）

撮影場所：落合集落(展望所付近)

撮 影 日：2019年9月8日

白い蕎麦の花が満開の落合集落。朝霧がたなびく中、集落を照らす朝日がスポットライトのように差し込みました。



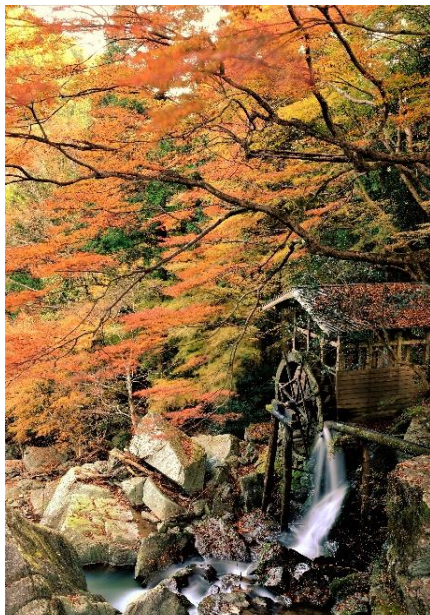
入 選 「暮れゆく剣山」

氏 名：住友 登（徳島県 在住）

撮影場所：剣山と次郎岨の間

撮 影 日：2019年1月3日

雪の剣山の素晴らしい夕暮れです。稜線を、雲が赤く焼けながら流れていくドラマチックな光景ですが、この時期にここにいる事のご努力とその情熱に敬服します。



入 選 「溪流に揺れる紅葉」

氏 名：瀬尾 真由美（徳島県 在住）

撮影場所：山城町瀬広(半田岩)

撮 影 日：2019年11月16日

三脚を用い、スローシャッターで風に揺れる紅葉と溪流を上品に写し出しました。縦構図で水車小屋と紅葉を強調しつつ、バランス良く表現しました。



入 選 「あじさい咲く頃」

氏 名：米沢 美千代（徳島県 在住）

撮影場所：山城町塩塚

撮 影 日：2019年6月18日

満開のあじさいを前景に、梅雨時の朝日に光るバンガローや山城の山々が美しいです。塩塚高原に行ってみたくなる作品です。



佳 作 「箸蔵秋の大祭」

氏 名：赤石 正広（徳島県 在住）

撮影場所：箸蔵寺

撮 影 日：2019年11月12日

「こんぴら奥の院」とも「お遍路寺の別格霊場」とも呼ばれる歴史ある箸蔵寺の秋の大祭の様子です。赤み始めたモミジを背景に、長い石段を法螺貝を吹きながら登ってくる山伏さんたちをまとめました。



佳 作 「秋の大歩危峡遊覧船」

氏 名：大高 久昌（愛媛県 在住）

撮影場所：山城町大歩危(大歩危峡谷)

撮 影 日：2019年11月21日

日が射し、清流の青みが増し鮮やかな紅葉の背景の中を上る遊覧船の、のどかな風景が美しいです。



佳 作「水辺にて」

氏 名：大西 隆俊（香川県 在住）

撮影場所：西祖谷

撮 影 日：2019年3月21日

昨年の撮影会の時に撮られた一コマ。平安時代の装いの2人のモデルさんと、背後の琵琶の滝のバランスが良く撮れています。



佳 作「黒沢湿原の夏」

氏 名：笠山 明（徳島県 在住）

撮影場所：池田町黒沢湿原

撮 影 日：2019年8月26日

四国では珍しい高層湿原の黒沢湿原。睡蓮の浮かぶ水面と、入道雲が浮かぶ青空が夏の陽を感じさせてくれます。



佳 作「三好長慶まつり」

氏 名：倉本 幸昌（徳島県 在住）

撮影場所：三野町

撮 影 日：2019年11月3日

11月に三野町で行われる三好長慶祭りでの一コマ。徳島にこんなに火縄銃の火が並ぶ勇壮な行事があるなんて驚きです。



佳 作「晩秋の彩り」

氏 名：佐竹 治（徳島県 在住）

撮影場所：剣山

撮 影 日：2019年10月25日

剣山山頂付近の真っ赤な紅葉の遊歩道から、色付き始めた麓の山岳道路の方角を撮りました。稜線を越える雲が深山感を、背景の緑が燃えるような赤の鮮やかさを引き立てています。



佳 作「雪合戦」

氏 名：杉浦 正幸（愛媛県 在住）

撮影場所：東祖谷菅生(いやしの温泉郷)

撮 影 日：2019年1月26日

例年は雪深い東祖谷菅生で行われた公式試合の雪合戦。降りしきる雪の中を防具を付けて真剣な表情の選手たちが写っています。



佳 作「池田の夏」

氏 名：三好 計夫（香川県 在住）

撮影場所：池田町マチ

撮 影 日：2019年8月16日

お盆に池田で行われる阿波踊り。初めて地元の7連の総踊りがアーケードで行われ、私も撮影に行き、迫力に圧倒されました。踊り始めの高揚感が伝わって来ます。



佳 作 「うまいソバが出来ました」

氏 名：森江 正（香川県 在住）

撮影場所：東祖谷名頃

撮 影 日：2019年10月2日

秋晴れの下、乾燥させたソバの束を棒で打って脱穀させている、のどかな山里の光景です。稔りの喜びの笑い声が聞こえてきそうです。



佳 作 「夢色のラフティング」

氏 名：雪本 信彰（高知県 在住）

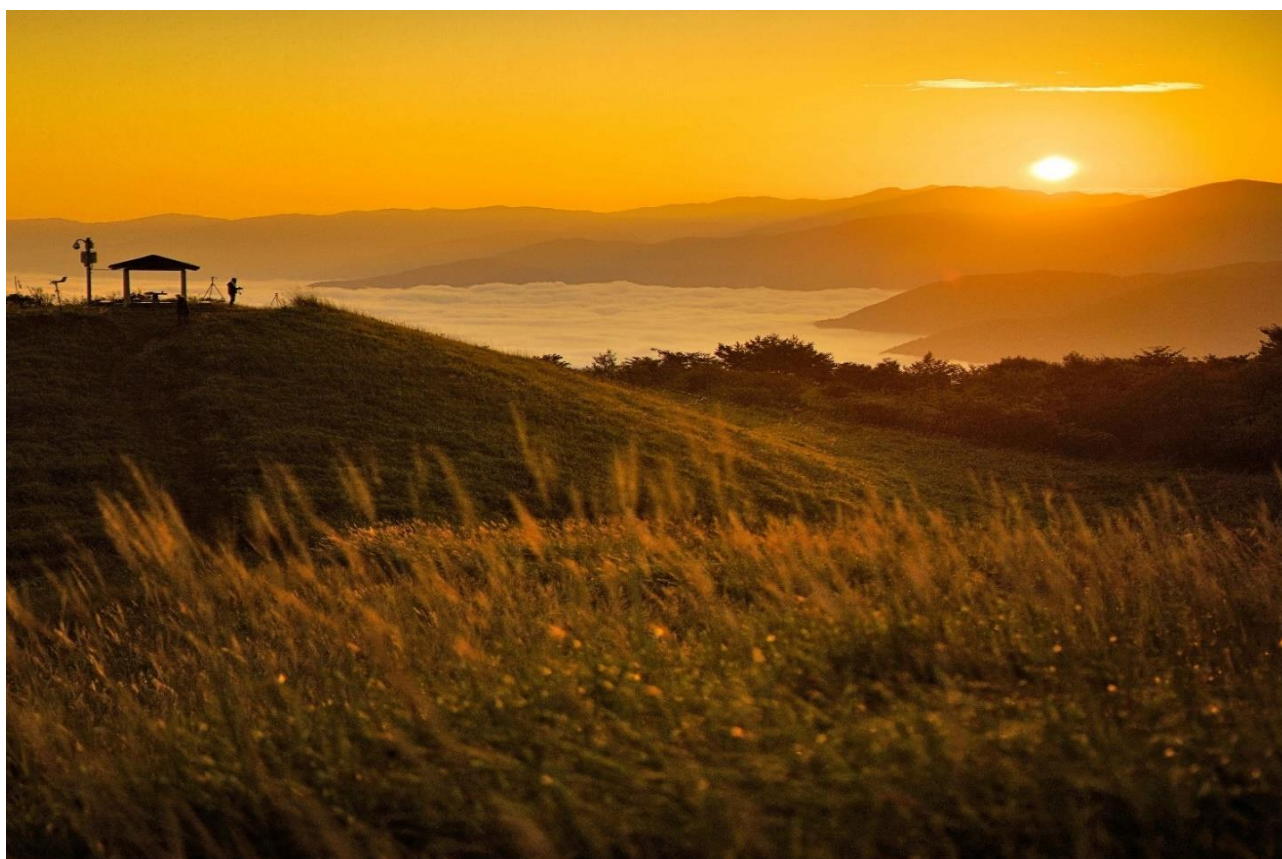
撮影場所：大歩危峡

撮 影 日：2019年10月5日

望遠レンズでアップに引き寄せてダイナミックに描かれる事の多い題材ですが、広角で大歩危峡の奇岩を多く入れた事で、この風景のスケール感が強調されています。鮮やかに反射する黄色が美しいです。

令和元年度

第7回千年のかくれんぼフォトコンテスト インスタグラム部門 ～入賞作品ご紹介～



優 秀 賞 「秋の始まり」

氏 名：akira_1972_（愛媛県 在住）

撮影場所：塩塚高原

撮 影 日：2019年9月26日

ススキの名所「塩塚高原」での朝の景色です。雲海の上に浮かぶ黄金色に輝くススキの素晴らしい瞬間に出会え、絶景を撮るカメラマンと展望台を小さくシルエットで写す事で風景の雄大さを強調し、行って見たいと思わせる魅力が光っています。



入 選 「秋の祖谷溪を渡る」

氏 名： ehimecameraclub（愛媛県 在住）

撮影場所： 奥祖谷二重かずら橋

撮 影 日： 2019年11月17日

奥祖谷の二重かずら橋と併設されている「野猿（やえん）」です。鮮やかな紅葉の谷間を風を感じながらスリルたっぷりて人力で渡る楽しさが伝わって来ます。



入 選 「躍動」

氏 名： every222（徳島県 在住）

撮影場所： 池田駅前通り商店街

撮 影 日： 2019年8月16日

阿波踊りの男踊りのダイナミックさの瞬間を見事に捉えました。さらに他のカメラマンさんのフラッシュの光も活かし、より躍動感と臨場感を強調されています。



入 選 「谷に輝く」

氏 名： kagawasin01（香川県 在住）

撮影場所： 大川持農林業体験施設

撮 影 日： 2019年3月9日

大歩危溪谷付近の谷には「八合霧」などと呼ばれる雲海が見られる事があります。天の川と雲海の輝きの競演が美しいです。



入 選 「水際で遊んだよ」

氏 名： kamihalu （徳島県 在住）

撮影場所： 池田湖水際公園

撮 影 日： 2019年8月25日

夏の池田湖水際公園での一コマです。水中写真かと思わせるような鮮やかな澄んだ水と、背景のへそっこ大橋と水辺の楽しそうな人たちが良いですね。



入 選 「里山の朝」

氏 名： kominkayado33kouya （徳島県 在住）

撮影場所： 三好市東祖谷落合

撮 影 日： 2019年10月30日

朝霧と杉林の多い三好では、このような光芒の絶景に運良く出会う事があります。落合集落の囲炉裏の古民家で泊まった朝に見えたら最高ですね。



入 選 「もう一回り」

氏 名： masaru_onishi （徳島県 在住）

撮影場所： 池田町四国酒まつり会場

撮 影 日： 2019年2月23日

酒蔵の多い、三好恒例の「四国酒まつり」での煌めきの美しい写真は「光と影」を実感する作品です。



入 選 「秋の秘境に恋して」

氏 名： sou_one （香川県 在住）

撮影場所： 奥祖谷二重かずら橋

撮 影 日： 2019年11月10日

紅葉の奥祖谷かずら橋を背景に、三好市ならではの青石の岩に佇む人。黄、青、赤色の絵画のような原色の世界に行ってみたくくなります。



入 選 「夏の湿原」

氏 名： _shino_photo_ （徳島県 在住）

撮影場所： 黒沢湿原

撮 影 日： 2019年8月4日

黒沢湿原の可憐なアイドル「サギソウ」の白い花を、月と星明りの下で撮っています。背後に立つ夏の夜の川が、美しく進歩するデジカメ技術を見事に使いこなした素晴らしい作品です。



入 選 「清夏の夏」

氏 名： toshiakist （徳島県 在住）

撮影場所： ホテルかずら橋

撮 影 日： 2019年8月23日

囲炉裏と障子の懐かしい古民家の光景を、光と影で美しく切り取りました。祖谷地区を中心に、三好には多くの囲炉裏の光景が残っていて、宿泊できる所もあります。



入 選 「山里」

氏 名： toshimi_noto （徳島県 在住）

撮影場所： 井川町

撮 影 日： 2019年3月30日

和紙の原料になる、三好市の特産のミツマタの可憐な花が、茶畑の広がる山里ののどかな風景とマッチしています。画面の濃淡の比率や構図がとても美しい作品です。